

第 1 回タスクフォース 議事要旨

(1) タスクフォース設置の趣旨説明

- JARA は残念ながらこの 30 年間オリンピックでメダル獲得を果たすことができていない。素直に“これはどうしてなんだろう”という思いがあった。基盤的体力、持久力や技術力、勝負強さなどといった総合的な観点から、これまでやってきたことを振り返り、新しく取り組んでいくことを考えたい。これまでと同じことを繰り返しては、決して世界で良い成績がとれないと思う。ぜひそういうことも踏まえて議論を交わしたい。
- 現在、JARA は JOC による各スポーツ団体の 5 段階評価では四番目のランクとなっている。実際はオリンピック競技としては最も低い評価に位置していることから、まずは我々の位置づけを理解して取り組んでいかなければいけないと思う。
- 強化戦略計画あるいは強化活動の実行は、直接的には強化委員会が責任を負うものだが、国内の強化活動に参加した代表選手が国際的にどう活躍するか、というのは日本の位置づけとなる。同時に、日本のローイングコミュニティを象徴する存在でもあることを考えれば、強化戦略計画は強化委員会だけではなく、他の委員会もよく支援し、全体として協力して作り上げていくことが必要ではないか。
- 今回の試みは、事実上、初めてだ。皆さんと協力してしっかりと取り組んでいきたい。

(2) タスクフォースの進め方について

- 目的及び進め方については、2028 年夏季オリンピック・パラリンピック（ロサンゼルス大会）に向け、各競技各種別の一体的かつ戦略的な強化を図るため、強化戦略計画策定タスクフォースを立ち上げた。検討においては、競技の主体である選手や国内コミュニティの意見を反映したもの、そして実効性ある目標設定や具体的方策について議論をする必要があると考えている。
- 中央競技団体として、ガバナンスやインテグリティを確保しながら進めていきたい。JARA では企画管理本部（具体的には企画戦略委員会）が担当している。
- 当面のスケジュールについては、資料に示した通り。可能な方は対面でのご参加をお願いしたい。議論の進行や内容を踏まえ柔軟に対応していく。最終的には、9 月の理事会で審議、10 月公表というスケジュールで考えている。
- 資料内のアンケートの記載については、準備が整い次第、ご提案させていただく。

(3) 計画策定における論点について

- 今後、タスクフォースとしては、①今後の重点種目、②選手の発掘・育成・強化の計画について、③選手強化に必要な環境整備について、議論し、方向性を見つけ、

皆様と共に作り上げていきたい。

- 改めて総括からの論点として、総括資料 21 頁「総括結果の概要」、22 頁「今後の課題」のとおり、従来以上に強化に関する情報共有を行うこと、内部関係者の調整のみによる意思決定が行われることのないよう、透明性のあるプロセスにおいて強化活動を検討する枠組みが必要である。これをタスクフォースから実践をしていきたい。
- 今回の総括を受けた論点となっている。これ以外に論点はないのか。強化戦略計画を作るにあたって、本当にこの六点の論点だけを議論すれば十分なのかと言うことを意識してもらいたい。

(4) 策定にむけての意見交換

- 今回、総括にあたって理事会や業務執行会議で意見を述べさせていただいたが、意見を尊重されているとは思えない。我々の意見は尊重していただきたい。
- 総括及びこのタスクフォースの立ち上げにあたっては、関係委員会とも協議のうえ進めてきた。企画戦略委員会は、意見を述べる中心的立場ではなく、実質的な議論を取りまとめる事務的な立場として進めさせていただく。
- 出た意見については、十分に検討することは当然だが、その結果としてタスクフォース全体として採用するかどうかは別の問題である。総括に関しては、民主主義のルールに則り、一定のプロセスを経て今日に至っている。
- タスクフォースで決まったからといって、できることできないこともある。
- どう取り扱うかは全体の判断になると考えている。タスクフォースに書いた内容は全て実行しなければならないという前提で書くのか、そうでないのか。実効性があるものしか盛り込まないということも一つの方法である。一方で、将来のことを考え、今できなくても将来できるかもしれないことを書き込んでおいた方がいいと、状況の変化によってそれに対応するようにすればいいんだという考え方もある。
- 重点種目については、ゴールをどこに持って行くか、ロサンゼルス大会の前にアジア競技大会（2026 年愛知）もある。時間的にも迫っているため、まずはロスをゴールに置いた時に、何をいつまでに行うか、体制を整えていくのかを考える必要がある。
- 医科学委員会は、これまで選手強化に関して具体的にサポートしてきたことはみることがない。世界選手権の帯同では体調管理といったところが中心だった。医科学委員会としてサポートできる余地はまだかなりあると考えており、具体的には、生理学的な測定データに対応したメニューの設定や助言、身体の使い方の評価などである。しかし、最終的に採用するかどうかは現場のコーチが決めるもの。
- パラローイングをやっているのは、強化と普及の二つの軸の中で、放っておくと人もお金も強化に集まってしまう。使っているお金の 9 割ぐらいは強化で、

残りの 1 割で普及をやっている状態。今回のタスクフォースは強化の議論の場であるが、協会としてローイングをどうしたいかという視点も必要。

- JARA のデータによれば、2023 年度までの過去 30 年間で、日本のボート人口（JARA 登録人口）は 55%程度となり、45%の人口が減少している。強化をどうするかと考えた時に、普及の問題も重要な観点だと思う。
- タスクフォースで検討する時間軸をどこまでにするかという課題がある。JOC・JPC へ提出する強化戦略プランというものでは、2 大会先のオリンピック・パラリンピックを見据えた計画を作っているがそれに合わせてもらえると大変ありがたい。
- 健常者と障害者の環境は大きく異なる。歴史が浅いパラローイングでは、どういう姿にするとより多くの選手が集って競い合えるのか。選手の人生と競技生活をどうやったらバランスよくできるのか。強化現場の話というよりは、競技環境をどういう形で整備していくかが重要な課題である。
- パリ大会の結果は総括の通りだが、ワールドローイングのコーチングマニュアルに書かれていることがまだできてないことが大きな要因と考えている。また、地方は情報に飢えているため、情報交換や教育の場としての地域拠点が必要。
- 今後いろんなことを進めるにもやはり財源という問題が非常に大きい。タスクフォースの中では財源やマーケティングといった観点が重要である。
- 強化戦略計画とは何か。我々は何を作るのか、それによって今後の事業活動の何が定義されるのか、ここの目線が合っていないといけない。
- 現在 JARA ビジョンと具体的な方針や活動があり、ビジョンはどちらかというとやや概念的なものである。現場で実際に指導する、選手をどう育成するかといった場合に具体策とビジョンの間には、もう少し計画性のある方針や対策の方向性というものが必要となる。これが強化戦略計画の位置づけと考える。
- 強化戦略計画というものの下に、現場に適用する具体的な強化方針、同強化方針に基づく具体的な強化対策や施策があるというイメージである。
- 強化戦略計画は、アップデートではなく、新しく作ると理解した。その出口として、ぜひ強化の組織論も議論すべきである。
- 本当はこういう議論するにあたって、皆様がビーチで一度コースタルローイングを見ていただいている状態が望ましいと思っている。ぜひ未来志向で議論したい。
- これまで多くの関係者が見てるところや考えてることが合っていなかったのではないかと感じている。このタスクフォースでは、目指す方向や目指す姿、目標について JARA の総意としてまとめ、それをローイングコミュニティの皆さんに示しながら、選手も指導者も同じ方向を向き、ベクトルを揃えるというところがこの強化戦略計画で最も大事なところである。
- こういう議論を積み重ねて、こういう強化戦略計画で行こうというものを作りたい。みんなで協力して仕事をして行くという大きなきっかけを今回の強化戦略計画の検討プロセス、タスクフォースを仕上げることによって成し遂げたい。